

## 山縣弘志先生への献辞

山縣弘志先生は2017年3月末をもって駒澤大学を退職されます。

山縣先生は横浜市ご出身で、1969年に東京大学教養学部教養学科をご卒業になり、大学院に進まれました。1975年に東京大学大学院社会学研究科博士課程を終えられ、駒澤大学経済学部講師として赴任されました。

ロシアの政治・経済構造、特に工場労働者に焦点を当て、ロシアの歴史における役割を読み解くご研究を重ねられました。先生は、これらの膨大な歴史研究に立って、現在のロシアが抱える諸問題の根源を探る中で、ロシア資本主義のゆがんだ構造の典型をウラルの製鉄業・冶金業に見出し、その歴史的分析へと研究を進められ、2016年12月、その研究成果をご著書としてまとめられました。

ポスト冷戦の現在、ロシアの国際政治・経済における立ち位置の把握はますます重要性を増しており、先生のご研究は、最近特に若手研究者が増えているロシア・東欧経済・政治研究の分野でも重要な一角を担ってこられました。

また、先生は2007年から2009年まで経済学部長をつとめられ、学部の発展に寄与されました。ゼミ生への指導にも定評があり、非常にユニークな学生たちが山縣ゼミを巣立っていきました。寛容で長期的な視野をもって研究・教育活動や学部運営に取り組んでこられた先生の姿勢には教えていただくものが多く、時にエスプリの効いた一言にクスリとしながら、先生の的確なアドバイスに感銘を受けていたのは私だけではないと確信しております。

もう一つ、写真家としての山縣先生についても触れずにはおられません。先生は多忙なご研究のかたわら、プロ級の腕を持つ写真家としても有名です。学部に関係する写真も山縣先生のご撮影によるものです。ロシアの激動の記録を残す何台ものカメラが研究室で先生の研究を手助けしていたことでしょうか。ご退職後は、少しはカメラマンとしてのお時間も取れるようになるのでしょうか。プーチンのロシアはまだまだ目が離せない対象となりそうですが、駒澤大学経済学部からも同様に目を離さず、ご指導を賜りたく存じます、その時には、是非、カメラを担いでおいでいただければうれしゅうございます。

先生のご健康とこれからのご研究のますますの発展を祈念いたします。

経済学部長 姉 齒 暁